

盆の行事 —盆棚・砂盛り—

* 鶴飼レイ子 北村和江 熊沢聖子
後藤ひろ子 滝沢すみ子 中村ふじ
望月定子 渡辺信子

1. はじめに

私たち「摘み草の会」は自主学習グループとして、昭和58年(1983)に大磯町の歴史や民俗などを勉強するために結成した。

これまで参加した文化祭では、平成7年(1995)「国府祭について」、同8年(1996)「道とその周辺」、同9年(1997)「道祖神(左義長)」、同10年(1998)「大磯の寺と神社」、同11年(1999)「100年前の大磯」を発売・展示した。20世紀最後の平成12年(2000)は、先祖に関わりの深い「盆行事」について取り上げた。

お盆の期間は4日間と短いため、平成10年(1998)に大磯・国府地区の「盆棚(精霊棚)」「砂盛り」の撮影を行なった。また、平成12年には大磯と平塚市金目地区の「盆棚」「砂盛り」、秦野市南矢名瓜生野地区の「百八松明」と「砂盛り」、三浦市初声町の「三戸の精霊流し」、中井町の「送り団子」などの写真撮影・聞き取り調査を少ない人数で行なった。特に飛び込みで個人のお宅におじゃました時でも、親切にお話をしていただき大変参考になった。

なお、この企画をする動機になった「砂盛り」の写真は沢山撮ったが、広範囲のため各市町村史や民俗調査報告書なども参考にした。報告書などはだいぶ年代が古いものもあるが、これらを含め私たち先祖より連綿と引き継がれてきた伝統・風習を垣間見ることができるだろう。

オショロサン、スナモリ、オルスイサン、ムエンサンなどの意味をあらためて考えて頂ければ幸いである。!

2. 盆行事について

神奈川県各地域と大磯町の盆の行事について調べてみた。8月13日～16日に行なうところが多く、「盆棚」は県内のどの地域も大差はない。座敷の一隅に「盆棚」を作るが、樽を2個置いて戸板を渡し(現在はテーブルが多い)、その上にマコモなどで編んだゴザを敷く。「盆棚」の左右に新しい竹を立て、縄を張り、そこに根の付いた生姜・青い稲の穂・小豆・ほおずきなどを下げる。正面には十三仏や仏画の掛け軸を掛ける。棚の上には位牌・

(*摘み草の会)

牛・馬・蓮の造花・生花・初物野菜・果物・蓮の葉の上に刻んだナスを供える。ミソハギを束ねた物。棚の下にはムエンサン(無縁仏)の供物。ただ、違いは、仏壇は空になったので扉を閉めるところと、オルスイサンがいるからとお茶や食べ物を供える地域・家があること。しかし、都会では野菜を吊り下げることがなくなり、大分簡素化されてきた。大磯の農村地域では、昔のようにまだ行なっている家もある。

「砂盛り」は神奈川県における最も特徴的なもので、家の門口に土・砂などを盛り、竹筒を3本から数本立て花生け、線香立てにする。ここは迎え火・送り火を焚く場所でもある。湯河原町、真鶴町、津久井町、城山町、愛川町、相模湖町、藤野町、相模原市北部、三浦半島、川崎市北西部を除く地域で作られている。「砂盛り」の分布を見ると、神奈川県中央部を東西に帯状に分布しているのが分かる。これは勝手な推測だが、街道に関係があるのではないだろうか。平安時代以前の東海道は、今の道筋と違ってほぼ県内中央部を東西に走っていた(足柄峠～南足柄～小田原～伊勢原～海老名～町田～川崎に駅が置かれていた)。ここを沢山の人々が往来することで、色々なものが伝承されていったのではないだろうか。

8月15日は「仏様の買い物日」といって、ほとんどの地域で弁当と称して、小豆飯のおにぎりを「盆棚」に供えている。買い物へ行く場所は天竺であったり、秦野では十日市場へ行くなど地域に近い場所を指して言われることも多い。また、8月16日の「送り団子」は「砂盛り」に挿したり、昔は川に飾り物と一緒に流したが、特に中井町では昔と同じように家に近い公道に3個や5個の串団子と蓮の造花を沢山挿してあり、とてもきらびやかに先祖の霊を送り出している。

今回、調べ始めて知ったのだが、新盆の時、かけ袋とか三角袋といって、白い三角の布に米を入れ、草履・扇子・お小遣いを麻ひもで結わえて寺に納める習いがある。これは、寺より言われる場合と、寺そのものに慣習が無くとも地域や家により行なわれている事例が判明した。大磯では数は少ないが、各地域にみられた。お盆の行き帰りに必要な食料と履き物、夏は暑いので扇子、小遣いなど、この世にいる者の思いやりなのか。

【事例1】：大磯町黒岩

◇8月13日

- ・墓参りをする。墓は香の花、生花。
- ・ツジ(砂盛り)を作る。赤土、台型、青竹4本を立てる。盆花、生花。昔は子供が作った。

- ・精霊棚を作る。箱に戸板を乗せ、ゴザを敷いた上に飾る。十三仏・仏画の掛け軸、位牌、綱を張り根付き野菜を下げる。牛馬、アライアゲ(ナスの賽の目切り)、束ねたミソハギ、盆花、左右に灯籠。供え物は普通に作った物、夕飯はめん類(牛馬の鞍のかわりにするため)。
- ・仏壇の扉は閉める。
- ・昔は精霊棚の下にムエンサンを供えた。現在はしていない。
- ・迎え火は夕方1回(13日のみ)行う。
- ・新盆は白い提灯を7日頃から下げる。今は盆が終わると墓で燃すか、寺へ納める。
- ・僧侶の御棚参り(棚経)が行われる。

◇8月14日

- ・精霊棚には家人と同じ食べ物を供える。
- ・仏様が野まわり(畑まわり)に行く日。仏様の足をカマで傷つけるといけないので畑仕事はしない(朝飯まへの朝づくり)。
- ・若い衆(奉公人)を休ませるため(家づくり)。

◇8月15日

- ・仏様の買い物日。仏様がささげのおむすび弁当(うるち米)を持って買い物に行く。

◇8月16日

- ・昔は墓にお土産として駄菓子を供えた。
- ・送り火を焚く。

◇その他

- ・新盆の時、白い三角の袋(かけ袋)に米を(4合・1升4合・2升4合)入れ、扇子・草履・小遣い(六道銭)を麻ひもで結わえたものを寺に納める(普通の時はいくらかはうるち米・もち米を納めたが、今はお金)。
- ・賽の目に切ったナスは施しのために餓鬼や仏様に食べさせるため、キュウリやニンジンでもよい。ただし、においのきついものはだめ。

【事例2：平塚市北金目】

◇準備

- ・お盆の1週間前にお墓の掃除をする。
- ・お盆の3日前に金目川よりフジサン(砂盛り)用の砂をとってくる。
- ・青竹を14本用意する(フジサン4本、お墓10本)。
- ・蓮の葉(里芋の葉)を12枚用意する(フジサン1枚、お墓10枚、精霊棚1枚)。

◇8月12日

- ・フジサンを作る。初めに普通の土で形をつくり、その上に砂をかけて形を整える。去年の造花の蓮華・ミソハギ・香の花・線香立て(青

竹4本)・馬(キュウリ)と牛(ナス)を作る。馬と牛の足はオガラで作る。13日は馬に乗り早く来るように、16日は牛でゆっくり帰るとの意味による。

◇8月13日(宵盆)

- ・オショロサマ(精霊棚)を作る。提灯を掲げ(新盆は白い提灯)、十三仏の掛け軸を掛け、位牌を並べる。ナスとキュウリを刻み葉にのせ、ミソハギを3本~5本束ねてお皿に置く。スイカ、サツマイモなどの初物やお中元で頂いた品物を飾る。また、入りばた餅(おはぎ)を供えるほか、朝・昼・晩に食べ物を供える。
- ・お墓参りをする。10時頃。ナスを刻み、葉にのせて供える(無縁仏の墓にも供える)。
- ・お寺へ祝儀袋を包む。
- ・迎え火を毎夕焚く(13日-迎え火、14日-ご馳走火、15日-送り火)。
- ・砂盛りに近所でお互いに線香をあげる(夕方5時頃)。
- ・オルスイサン(仏壇)にもご飯を供える。

◇8月14日

- ・坊さんの御棚参り。寸志を包む。
- ・ご馳走火を焚く(夕方)。

◇8月15日

- ・団子を備える(三角形)。
- ・送り火を焚く(夕方)。

◇8月16日

- ・午後盆棚を片づける。

【事例3：中井町鴨沢】

◇8月13日

- ・精霊棚(オショロサマ、ボンダナ)を作る。牛と馬には手綱としてソーメンを掛ける。基本的にはどの地域も飾り物・供え物は同じ。ムエンサンは昔は棚の下に供えていたが現在は祀っていない。仏壇はルスイバンと言われ、里芋の葉にご飯を入れ供える。
- ・砂盛りを作る。砂盛りは仏様の休憩所であるといわれている。川砂で台型。竹筒に去年の造花の蓮華や生花を挿し、砂の上には賽の目に切ったナスを入れた葉を置く。昔は砂盛りに近所で互いに線香を上げた。
- ・迎え火を焚く(13日の夕方だけ)。
- ・新盆の場合には、盆の期間中は白い提灯を軒先に掲げる。16日の夕方に屋敷か墓、または寺で燃す。
- ・墓参りをする。花と線香を供える。

◇8月14日

- ・入りばた餅を作る。

- ・坊さんの御棚参りはない。

◇8月15日

- ・仏様の買い物日なので弁当を持たせる。弁当は赤飯のにぎり数個。

◇8月16日

- ・送り火をする。昼頃から3時頃までに砂盛りのところで行う。
- ・送り団子は3個串につけ、家に近い道の入り口に造花の蓮華と一緒に挿して置く。

【事例4：秦野市南矢名瓜生野】

◇準備

- ・お墓の掃除を行う。竹筒を用意する。
- ・新盆のときは、提灯を早く(初旬)から提げ、16日まで提げてどンドン焼きのとき燃す。

◇8月13日

- ・精霊棚を作る。位牌を置き、十三仏の掛け軸を掛ける。ナスとキュウリの牛と馬、ミソハギ、野菜や果物の初物を供える。また、綱を張りホオズキや秋の野菜などを吊す。
- ・ムエンサンは精霊棚の下に作る。
- ・オルスイサマと言ひ、棚に全部出した後の仏壇は、扉は開けておき、ご飯を供える。
- ・ツジを土で作る。去年の造花の蓮華を挿す。ナスの刻んだものを葉に入れツジに供える。ツジには線香を近所で互いに供える(期間中毎夕)。
- ・墓参りをする。墓にはたくさんの線香を上げ、寺には寸志をわたす。
- ・迎え火は、期間中毎夕玄関の所で焚く。

◇8月14日

- ・坊さんの御棚参りがある。
- ・おはぎ(ぼたもち)を供える。

◇8月15日

- ・仏様の買い物の日(十日市場に買い物に行く)。朝早くに昼の弁当のために赤飯のむすびを5個作る。

◇8月16日

- ・送り団子を作る。おがらに団子を5個つけ、川の側に挿す。ご飯、ジャガイモやカボチャの煮物と一緒にそえる。昔は川に流した。
- ・夕方に送り火を焚く。

3. 瓜生野の百八松明(ひゃくはつたい)

秦野市南矢名瓜生野地区に昔から「百八松明」という8月14日に行われる盆行事がある。『秦野市史民俗編』には【この盂蘭盆会には豊作祈願の護符といって虫封じのお札が畑や田のあぜ道によく立

ててあったと言われている。このお札はずいぶん遠くから受けに登ってきた人が多かったとも伝えている。またこの「百八松明」の由来ははっきりとしないが、煩惱という、人々にはその身や心を悩ます多くの欲望がある。人間が背負っている数々の罪業を、百八松明に数えあげて「百八煩惱」といい、この心の闇を照らし、この世の闇を照らし出す光明として権現山山頂に高く百八松明をたきあげるのだという】とある。

この行事は明治の中頃一時中断したが、その時伝染病がはやり、地区で数人の死者が出たため、これは「お精霊のたたり」だといい、その後すぐ復活したということである。

【百八松明の行程】

◇松明を作る

- ・14日に龍法寺の前の空き地で子供から年寄りが集まって、ワラで長さ2メートル、太さ30センチほどの松明を70本作り権現山に上げる。また、龍法寺の前と弘法山(権現山)の中腹とに幾つものワラの山を盛り上げる。

◇寺にて松明点灯のための読経(18:00~18:30)

- ・代表者2人がロウソクをいただく(種火)。

◇山頂にて点火(19:10)

- ・積み上げたワラに点火し、燃え上がると松明に火を移す。闇の中、子供を先頭にして燃えている松明を肩に担ぎ次々に下りてくる。下の龍法寺につくと同時にワラの山にも点火される。

◇松明をぐるぐる回す

- ・若者たちに担がれた松明は下の龍法寺横に着くと、ハンマー投げのようにぐるぐる回す。火の粉が飛び散り、またゆるい松明はスッポ抜けて飛んで来るが、一番のハイライトである。まさに煩惱を振り払うが如しである。

◇盆踊り(20:00~)

- ・松明の行事が終わると、瓜生野盆踊りが女の人たちにより踊られる。この踊りは、初めは素踊り、次は手拭いを持つ「ささら舟」、扇を持って踊る「おっちょこちょいのちょい」。このように珍しい三部の構成である。

4. 三戸の精霊流し

三浦市三戸の神田・丸北・上谷戸の地区では、毎年8月16日早朝に、麦藁で作った長さ5~6メートルの3艘の舟に仏前の供物を積み、沖に向かい霊を西方浄土に返す盆送りの行事「精霊流し」が行われる。神奈川県指定無形民俗文化財。

16日の朝6時から浜に出て、神田地区はワラだけで、丸北地区と上谷戸地区は青竹を骨組みにして麦藁を積み重ね、縄でくくって作る(1)。その上に笹竹を数本立て、綱を張り、提灯をぶら下げる。オショロサマもつなぎ合わされ1メートルぐらいの長さにして舳先にたくさん立てられる。大人や子供たちにより浜に集められた供物を積み込み完成である。

舟は縄で6枚の板子とつながっている。朝8時に僧侶の読経と地区の人たちの御詠歌に送られて舟出。6人の少年たちにより沖へ引かれていく。祖霊はあの世へ…現在は沖合いで燃すが、以前はそのまま自然の成り行きに任していた。

精霊送りを済ませた少年たちは、リーダー(大将)の家に帰る。風呂が沸いているが、先にオミシメサマを入浴させてから、順次入浴する。その後、ご馳走になる。

【オミシメサマ】

20センチぐらいの木で人の顔に作り、綺麗な着物を着せ、輪番の宿になる大将の家に祀られている。

【精霊棚】

三浦地方は特異の精霊棚の飾り方がある。それは雑貨屋で“おしょろさま”を一对(麦藁を長さ20センチ・幅4センチほどに切って束ねたものに色紙を巻き、花形を添え、両端にオガラを付け、これに色紙のギザギザを貼り付けたもの)買ってきて、牛・馬(ナス・キュウリ)に乗せ棚に飾る。その他の飾りでは、今でも仏壇の前に綱を張って根の付いた初物野菜を下げ、また同じ供物を墓の前にも下げる。夕方になると、盆提灯を下げてお

墓参りをし線香をあげる。期間中の朝と晩、ナスの刻んだものを墓にあげる。また、無縁仏のために棚の下に供物をあげる。なお、三戸では迎え火、送り火はしない。

【新盆】

新盆の家では、細い青竹を十字に結び、縦と横の竹の先を綱でつなげる。縦の竹の先端に杉を指し込み、横の竹の一方に白い提灯を下げ庭に立てる。8月1日より盆の期間中毎夜点灯する。16日に精霊舟に乗せ流す。また、三角に縫った白い袋にお米を入れ、わら草履(今は雪駄)を添えて寺に供える。これは湘南地方で行われているかけ袋と同じである。

5. おわりに

近年、人間の命が軽んじられ、簡単に人を傷つける事件が発生しているが、なぜなのか。物は溢れているが反面人の心は満たされていないのか。生活様式も我々子供の頃と比較すると、数段の変化を遂げてきた。この世紀末の世に祖先が残り、伝えてきた諸行事の中、亡き人の供養のみならず、今を生きている人たちの心のつながりとして、あえて盆の行事を取り上げてみた。

21世紀に向けて伝承されていくのか、消えていくのか、あらためて感慨深く思う。

色々ご協力いただいた皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

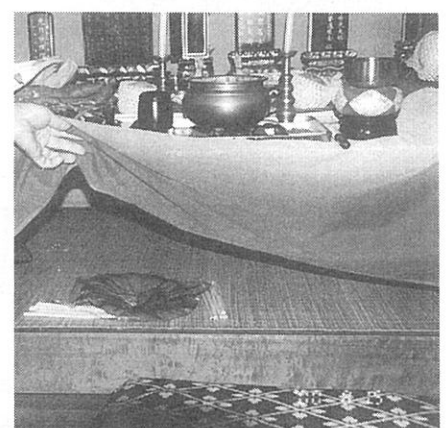
〔註〕(1) 舟を作るワラは、現在厚木から買い求めている。



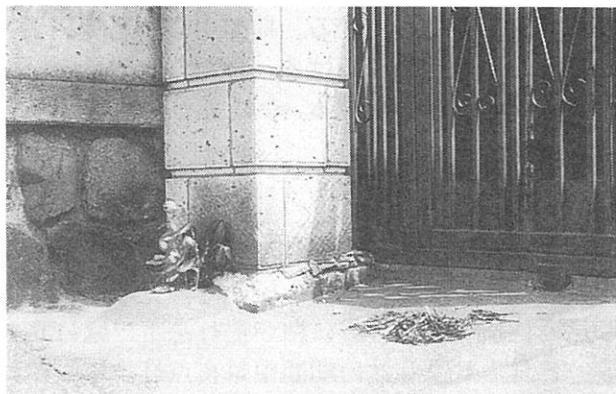
精霊棚 (大磯町南町下町)



精霊棚 (大磯町西小磯)



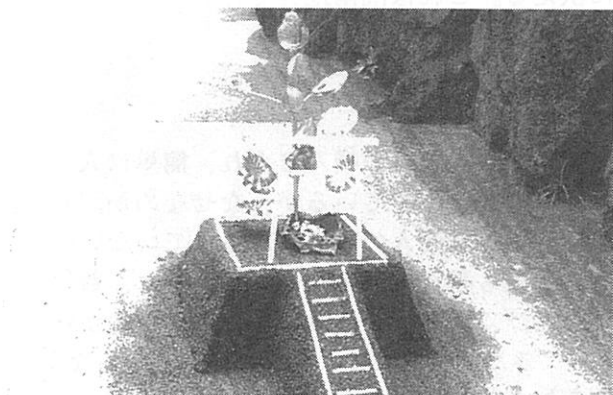
ムエンサン (大磯町西小磯)



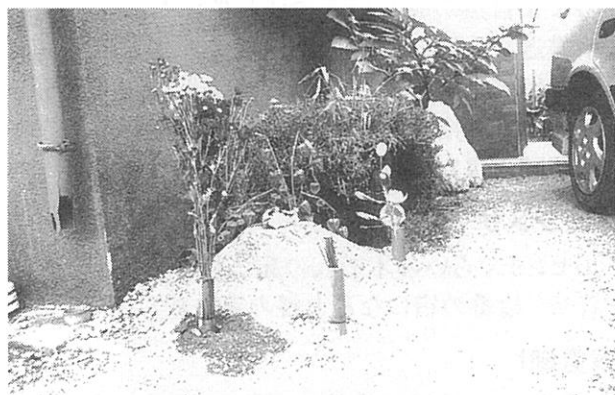
スナモリ (大磯町西小磯)



迎え火の跡 (大磯町国府本郷)



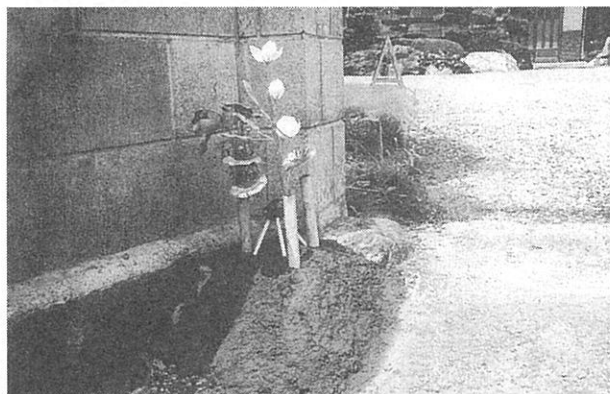
ツカ (大磯町国府本郷)



フジサン (大磯町生沢)



スナモリ (中井町鴨沢)



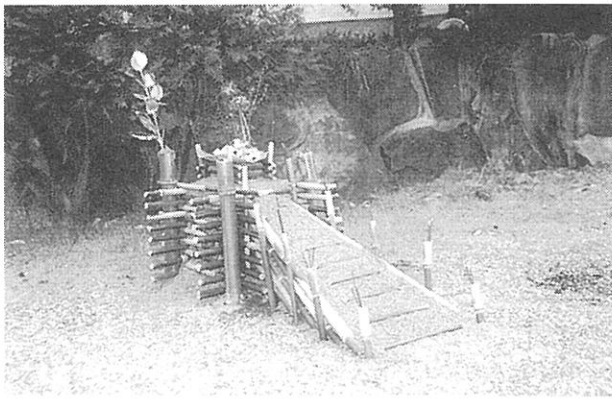
ツジ (大磯町黒岩)



スナモリ (中井町鴨沢)



送りだんご (中井町鴨沢)



ツジ (秦野市南矢名)



百八松明の準備 (秦野市南矢名)



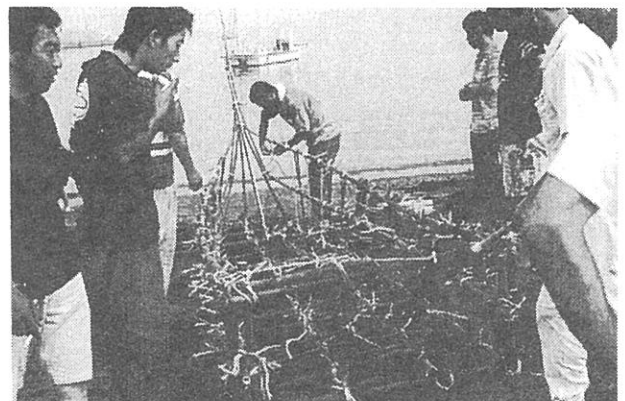
百八松明 (秦野市南矢名)



瓜生野盆踊り (秦野市南矢名)



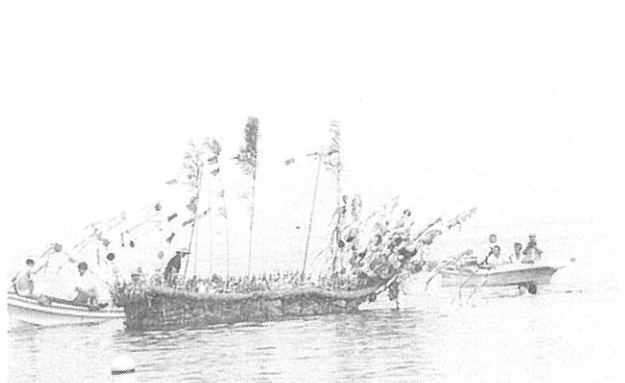
供物を集める (三浦市三戸)



舟の準備 (三浦市三戸)



読経と御詠歌で舟を送る (三浦市三戸)



精霊流し (三浦市三戸)